

# せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成23年 4月 第122号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

## 復興に向けた営み—3万の命に応える途を探して

平成23年3月11日午後2時50分頃、壁に掛けた2枚の絵がゆらゆらと少し揺れていました。東北地方からは遠く離れた加古川も同じ時刻に揺れ、その後一瞬にして、津波に飲み込まれ、沖に流され、死者と行方不明者が併せて3万人近くに上っています。更には、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能漏出が未だに収まりません。

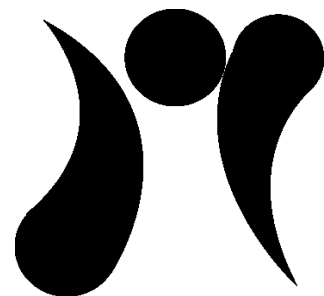
自然現象の世界でも、人間の科学技術の世界でも、想定外の出来事に対応し切れず、今は混乱の極みであっても、遠からず緊急避難から復旧へ、復興へ、日常生活の再建へ、と向かわねばなりません。残った我々は、不便や我慢を共有し、地域の防災や原子力発電の是非など、生活への影響も覚悟して、復興する途を探らなければなりません。3万の人々の死を想い、死の意味や価値を問い、死者に応える途を探る責任があります。

不慮の死。正に想定外の死、ではあっても、此れは現実です。その現実を肯定し、失われた命の意味を問いかける必要性を感じていた3月27日夜、NHK大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』を見ました。3人の姫『茶々・初・江』が母親お市の方の死に出会い、母の死に向き合い、死の意味を問い掛け、夫々の生きる力を蓄えていく様子が描かれていました。3人の姫たちは夫々に、母の死に応える途を探してその後の人生を歩み、結果としてお市の方の死と姫たちの生き様は、歴史的にも重要な役割を果たしました。姫たちの生き様には、母お市の方が、自らが置かれた境遇を受入れ、毅然として死と向き合い、死を選んだ姿が、決定的に大きな意味を持ち、大きな役割を果たしています。

『楯山節考』が描く貧しい農村では、一家や集落の存続を願って楯山で死を待つ姥の想いに応えて、子や孫が姥の暮らしを引継ぎ、貧しいながらも逞しく生き抜いています。

超高齢社会を迎えた今、多数の高齢者が年齢的には想定される範囲の死を、日常的に迎えています。その最期を巡る営みが日常生活から消え、多数が病院で最期を迎え、制度的に持続不能に陥っています。

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

持続可能な制度の実現を目指して社会は高齢者に、要介護にならず、重度化せず、死を避ける努力を求めます。しかし最終的には、死を避ける努力は実を結ばず、高齢者は必ず要介護になり重度化して死を迎えます。死を避ける努力を優先してきた家族や介護者にとって、死は敗北としか映らず、その意味も価値も役割も見出せません。死者の想いに応える事も、暮らしを引継ぐ事もできずに、社会の断絶を招いています。

戦国の世であれ、超高齢社会であれ、人の死がもつ普遍的な意味や価値は不変ではないか、と思います。家族が死者に応える途は、親や配偶者の死と出会い、その死と向き合い、その意味や価値を問いかける処から始まります。そしてその問い掛けは、死に逝く本人が自らの死と向き合う処から始まっており、死後に問い掛けても間に合いません。死を避ける努力を優先してきた我々は、死者に応える途を探す上で、大きな間違いを犯してきたように思います。

平和で豊かな超高齢社会の今、自らが持つ生物体としての生命維持能力を超えても、暫くは生き永らえる事が可能になりました。其処は家族の意向が最期の在り様を決める場面となり、『何時までも生きていて欲しい』と願う子や配偶者の想いに添って、生命維持装置を着けて生かされる高齢者が増えてきました。その、老いて『暫くの間生かされる生命』に、普遍的な意味や価値が在るのか、社会全体の大きな課題として今、広く深く議論を呼んでいます。

人間以外の動物は、遺伝子が伝える情報のみで夫々の世界を造って活動し、最期は群れから離れ、生命活動を終えて自然に還ります。人間は遺伝子情報と併せて、遺伝子では伝わらない思想や価値観を礎として社会を創り、人生を歩み、社会の一員として、その人生を締め括ります。その歩みと締め括り方は、人間のみが持つ文化・文明の礎となる思想が表現される営みです。

次の世代の人々は、自然界の一員としての誇りを失わずに生命を完結させる姿に、そして、社会の一員として毅然と自らの人生を締め括る姿に触れて、それに応えるべき自分の生き様を決め、目指す社会を構想し、現状を変化させ、発展させる力を蓄えます。それが、遺伝子を超えて思想が伝わる過程です。

今、東北・関東で起こった地震・津波・原発事故と連続した事象は、正に人間の文化や文明のあり方を問い掛けています。自然の一員として何処でどの様に住み、社会の一員として科学技術でどの様な暮らしを実現するのか、日常の生活と社会の在り様を鋭く問い掛けています。そして、自然に対する畏敬の念や、科学を万能とする傲慢さへの反省を、社会全体に鋭く迫っていきます。

復旧・復興への営みを始めるに当り、3万の死者に応える覚悟と復興への構想を固める為に、『人の死』がもつ、普遍的な意味と価値と役割を社会全体が共通理解する必要があるように思います。その共通理解の原点が、高齢者介護の現場で今遭遇している『暫くの間生かされる生命』と、それを可能にする医療技術の是非に在る、と感じます。人生を締め括る過程で思想を伝える役割を負う老いた命への医療は、遺伝子を伝える役割を残す若い命への医療とは当然に違います。老いた命が完結する営みの中で『不思議な生命力』を感じ取る心は、巨大な津波を生む自然の力を畏怖する心と、相通じるものがあります。

今回の東日本を襲った大震災と原発事故は、ベルリンの壁の崩壊が世界の変化を促進させたのに匹敵する、日本社会を大きく変化させる、重要な転換点となる可能性を感じます。この復興には、10年或いは20年以上の長期的な視野が必要であり、息の長い募金や支援活動を通して、社会を変化させ発展させる力と、その思想を支えたい、と心より願います。

## グループホーム・小規模多機能ホーム運営推進会議の報告

日時：平成23年3月26日（土）14：00～16：00 特養1Fホール

### ○利用者家族の感想（1年間委員として）

- H氏：認知症が進行し面会に行っても家族の顔も解からなくなっている。本人は子どもと一緒に暮らしたい希望があったと思うが、自分自身の家族への気遣いもあり見てやれていないのが残念である。施設で生活することで孤独死の心配はなくなった。1年間参加したことが今後の人生の中で何か役に立つのではと思っている。
- M氏：元気な時はとても気丈な母親であったが年々気が弱くなっていくのを見ると、とても寂しい。入居当初は自身の元から離れたことにとっても責任を感じていたが、現在は安心している。長生きして欲しいと思う。

### ○意見交換

#### 〔高齢者を救急搬送することについて〕

現在、高齢者の83%の方が病院で最期を迎えている。救急搬送の必要があり、意味のある患者は別として、高齢になり人生を締め括る時期にある人が日常生活の中で自然に死を迎えることを普通であると考えたい。

自然な営みの中での死は次代に大切な何かを伝えていく価値のあるものである。

#### 〔胃ろうについて〕

胃ろうについては賛否両論がある今、高齢者に胃ろう手術が本当に必要なのかどうか社会全体で議論し考えていく必要がある。

#### 〔自然災害について〕

想定外の災害に対しては人間の計算は脆いもの、到底太刀打ちは出来ない。想定外の死もまたあり得る。災害を機に地域の絆が大切であることを改めて感じる。

## 第18回 木野雅之 ヴァイオリン・リサイタル

日時：平成23年6月18日（土）

開場 18：00

開演 18：30

会場：リバティかこがわ2F

加古川市野口町長砂95-2

交通：JR加古川駅か東加古川駅  
よりゾーンバス「長砂公民館前」下車すぐ

駐車場有

料金：4,000円（予約不要）

休憩時間にドリンクサービス  
があります。



PhotoByMr.KazuyaAkashi

## 介護についてみんなで語ろう会

### テーマ「食べること、飲み込むこと」

せいりょう園老人介護支援センター  
社会福祉士 吉田 知一

誰しも自分の口から食べ物を食べたいと望んでいることだと思います。1月の語ろう会では「胃ろうのことをよく知ろう」というテーマで開催し、その時の内容を機関紙にも書かせていただきました。胃ろうとは、なんらかの理由で口からの栄養が摂取できない方に対し、胃に穴を作成しチューブ留置し、水分・栄養を体外から注入させるための処置です。機関紙を読んでいただいた方からの反響があり、皆さんの興味がある内容だったのだと感じました。

今回の語ろう会では、飲み込みが悪くなった時に胃ろうという手段ではなく、口から食べる事が出来るように食べ物の工夫をしていく方法を皆さんと一緒に話しました。

#### ○飲み込みが出来ない状態とは

まず、飲み込みが出来ない状態とは、どのような状態があるのか、の説明をします。

#### 病気や障害のある方の場合

脳梗塞や脳出血などの後遺症により麻痺がある場合は、嚥下障害が残る場合があります。「嚥下」とは、飲み込むことを言います。本来、食べ物がのどの咽頭に当たると、反射神経による反射により気道に入らないように飲み込んでいるのですが、障害によりこの反射が上手く行えず気道に入ってしまい、むせ込んでしまうことがあります。むせ込んでしまうことを「誤嚥」する、と言います。

#### 認知症の方の場合

認知症の症状が進むと、食事をするということや食べ物の認識が出来なくなり、食べたいという意欲もなくなっていきます。食べ物の認識が出来ないと十分な咀嚼や唾液の分泌が促されないため、食べ物を飲み込みにくくなります。

#### 老衰の方の場合

老衰に至るまでに様々な病気や体調の変化を経ているますが、基本的には内臓の機能が低下していきます。食べ物を食べても消化し吸収する機能が徐々に弱くなっていき、飲み込みも

悪くなります。吸収出来ない食べ物は異物となり、排泄も出来ない為、本人自ら食事を拒否される方もいらっしゃいます。最後は余分な肉が削ぎ落ち、骨と皮の状態になります。つまり、老衰とは食べることが出来なくなり、自然な形で枯れるように亡くなっていくことをいいます。

#### ○飲み込みやすい食べ物とは・・・

NHKで放送されていた「なるほど！納得介護」という番組を皆さんに紹介させていただきました。「あきらめない！口から食べるための調



NHK番組「なるほど！納得介護」  
を皆さんと観賞しました

理法」というテーマで、飲み込みが困難な方でも調理方法を工夫して出来るだけ口から食べる、という内容でした。

私たちも経験があると思いますが、むせる時は水分を飲み込む時が多いと思います。水分は固形ではなく液体なので、嚥下反射が起こりにくく誤嚥してしまう場合があります。番組の中では、飲み込みやすくする工夫として、「ゼラチン」を混ぜることによってゼリー状にすることを紹介されていました。ゼラチンは人間の体内に存在するコラーゲンが材料になるので、寒天などよりも飲み込みやすいそうです。その次に飲み込みやすい食べ物として、プリンやネギトロなどの紹介がありました。ネギトロなど油脂があり柔らかいものは飲み込みやすいそうです。その次にヨーグルトや豆腐などの食材が飲み込みやすく、その次が、お粥になるそうです。番組の中では、お粥の簡単な作り方を紹介されていました。



ゼリー状になったお茶を飲んでいただきましたが、あまり美味しくないとのことでした。

### ○感想

毎日3食ご飯を食べるとして、平均寿命から計算すると、私はあと5万回しか食事を摂ることが出来ないことが分かりました。不摂生な生活をしている私は、さらに少なくなるでしょう。そう思うと、お腹が減り、口から食べ物を食べることが出来る限り、1食1食を大切に食べなければいけないな、と思うのです。生きる上で、食べ物を食べることが出来なくなってしまふ、ということは生命の危険があるということだと思えます。しかしながら、食べることが出来なくなり命を終えていくことは、老衰を迎える上で自然な現象だといえます。だからこそ、出来るだけ口から自然な形で食べることが出来るように工夫が出来ればと考えています。

### せいりょう園 毎週の行事

月曜日	のびのびルーム (自彊術)
火曜日	のびのびルーム (映画会)
水曜日	のびのびルーム (カラオケ)
	音楽療法
	自彊術療法
木曜日	のびのびルーム (自彊術)
金曜日	ピア/教室
	陶芸教室 造形教室
第2火曜日	折り紙教室
第1・3火曜日	書道教室
第2・4水曜日	お話グループ
	・福寿草の会

### せいりょう園 5月の行事予定

5月 2日(月)	共生の会 仏教講話
5月 7日(土)	園長との懇談
5月15日(日)	和太鼓
5月16日(月)	美容の日(従来型)
5月18日(水)	昼食会(すき焼き)
	美容の日(ユニット型)
5月23日(月)	理容の日
5月27日(金)	介護について
	みんなで語ろう会
	郷土料理 (ちゃんぽん風)





講師 天台宗教信寺遍照院  
長谷川 俊生住職

デイサービス 谷澤 高明

4月4日。快晴。せりょう園に1本の大きな桜の木がある。毎年この頃になると、出勤時駐車場に車を止め、桜の木の下で立派に伸びた枝を眺め、一番咲きの花卉を見つけるのを楽しみにしている。ところが今朝桜の木を見上げたら、もうかなりの花が枝を賑わせていた。この土日の暖かい日に開花してしまっただけならいい。何か大切にしてきた自分だけの秘め事を他の人にも知られてしまったような気分になった。『元気な桜の木とそうでない木の見分け方』を先日TVで知った。元気な木の枝は小さいものまで真っすぐに伸び、そうでないものは先の方が弱々しく下を向いてしまっている。花(蕾)も1箇所にも4つも5つも固まってついているのが元気な証拠。木が弱ってくると花はポツンポツンと間隔をおいて寂しそうに、寒そうに枝にしがみついているように見えるらしい。そこへいくと我が『せりょう園の桜』は実に元気はつらつとしている。

さて、今月の仏教講話は天台宗、教信寺遍照院 長谷川俊生ご住職にお願いした。今回、何故書き出しを桜の木の話から始めたのかと言うと、教信寺さんと言えば昔から境内に立派な桜の木が沢山あり、桜の名所としても有名な名刹だからである。実は小生は野口小学校の卒業生で、6年間学校帰り毎日のように教信寺さんの境内で遊んで帰ったものであった。そしてお花見、念仏様はもとより、時にはお葬式の一部始終を見学して帰ったこともある。先日ご挨拶の電話の際、ご住職はご自身のお年が若いことを少し気にされていたが、なるほどこれまでお願いしたご住職の中でも一番お若

いご住職ではないかと思われる。さて当日、ご住職は手に大きな紙袋を提げてやって来られた。簡単な自己紹介の後、ご住職は4月のお寺の行事について質問された。前の誰かが「お釈迦さんの誕生日」と答える。「そうです。よくご存知ですね。4月8日はお釈迦様のお誕生日ですね。教信寺でもお祝いして、『花まつり』をします。今日はまずお釈迦様の誕生についてお話します。ボードに字を書いて説明しながらお話しさせてもらってもいいのですが、何か、もう少し強く関心を持って頂ける方がよいのではと思います、紙芝居を持ってきました。」紙袋の中から一遍の紙芝居を取り出された。『おうじさまのおたんじょう』と表紙に書かれた、総天然色で製作年代がよく分からない、しかしかなりお値打ち品のように私には感じられた。

内容は紀元前5C頃、現在のインドとネパール国境付近にあったカピラ国の城主シュッドーダナ王とマヤー王妃の王子として誕生したお釈迦様の誕生秘話を著したものであった。王と王妃は何不自由のない生活をしていたが、唯一の悩み事は子供に恵まれないことであった。そんなある日、王妃が夜空を眺めていた時、大きな光が近付いてきた。そして光の中から牙を6本持った白い象が現れた。王妃がその象に触れようとしたら、象は近付いて来て、王妃の右脇から体の中に入って来て、ふっと消えてしまった。それを聞いた占い師は『これはおめでたいことです。きっと王子様が授かるでしょう』と告げた。そして春、4月、占い師のお告げ通り子供を宿した王妃は子供の誕生が近付き里帰りの途につかれた。

国を出てから何日か過ぎ、通りかかったきれいなルンビニーの花園で王妃はのりものから降りて一休みされた。咲き乱れる花の1輪を摘もうとした時、花卉がこぼれ、何処からか美しい音色が聞こえ、皆はうっとりとして手を合わせた。お供が我に返った時王子が誕生され、これがお釈迦様である。この時王子は7歩歩いて、右手で天を、左手で地面を指し【天上天下唯我独尊】と発せられた。王子は『シッタータ』と名付けられた。

ご住職は前の掲示板に文字を書きながら説明を加えられた。

お釈迦様の誕生の日に甘露の雨が降ったという言い伝えがあることから、4月8日には釈迦像に甘茶をかける風習が出来た。甘茶をかけることを『灌頂(かんじょう)：いただきに注ぐ』と言い、日本ではお釈迦様の誕生法要は『花まつり』が一般的な呼び名であるが『灌仏会(かんぶつえ)、釈尊降誕会(ごうたんえ)、四月八日(うづきようか)』という言い方もあるとのことである。

「私どものお寺の宗派は天台宗です。勿論仏教ですから元をたどればお釈迦様ですが、長い間にいろんな宗派が生まれ、天台宗もその一つで、開祖はご存知の通り伝教大師最澄様です。最後に伝教大師様が残された多くのお言葉の中から今日は一つだけお話しします。

己を忘れて 他を利するは  
これ慈悲の極みなり

『自分のことはかえりみずに、他人が喜ぶように行動することが、究極の慈悲である』という意味です。今回の東日本大震災の現場で必死に働くボランティアさん達は、まさしくこのことかなと思います。普段でも行く先に迷い、選択肢が沢山あったら、皆さんはどうされますか？楽な方、得な方を選びたくなりますよね！お大師様はそんな時『敢えて損すると思う方へ進め』と説かれます。そうすると他の人が得な方を選ぶことが出来るでしょう。他の人が喜んでくれると自分の喜びも大きくなります。小さなことで結構、皆が喜んでくれることをすることが御仏の心です。先の言葉を漢字四文字で『忘己利他(もうこりた)』と表現されます。しっかりしていないと、『もう懲りた』に通じてしまいます。

今日の私のテーマは『花まつり』と『最澄様のお言葉』でした。

花を見たら綺麗だなと思う。そしたら心が穏やかになる。これ即ち慈悲の心なり。花は心に慈悲の功德をもたらします。仏壇にこちらを向けて花を供えるのは、自分も優しい心になるためなんです。今月から新しい年度に入ります。気持ちを新しくするためにも花を愛で、心清らかに、心穏やかにすることで慈悲の心を育てましょう。

「機会があったらいつでも声をかけて下さい。まだ沢山紙芝居もありますからね！」お言葉に甘えて、是非またお願いします。有難うございました。

## せいりょう園待機者状況

<平成23年4月13日現在>

○入所判定済み者 397名 (グループの内訳)

Iグループ…133名

IIグループ…154名

IIIグループ…101名

○入所判定済み者の現在状況

在宅150名/特別養護老人ホーム入所中14名

医療機関入院中111名/老人保健施設入所中88名

ケアハウス入居中5名/グループホーム入居中15名/不明5名

○辞退その他 せいりょう園入所1名/他施設入所2名

死去5名/辞退1名



## 4月9日お花見会



せいりょう園にある桜の  
樹の下で記念撮影をしました。  
4月に入って寒い日が続き、  
桜が咲くか心配していましたが、  
今年もお花見会までに咲きました。



お花見会にはたくさんのご家族の方に参加いただき、  
利用者の皆さんの笑顔も満開になりました。

### ケアハウス等空き情報 <平成23年 4月14日現在>

#### 《ケアハウス》

- |            |                      |             |          |
|------------|----------------------|-------------|----------|
| ・ 恵泉       | : 1人部屋若干<br>: 2人部屋若干 | ・ 第二ケアハウス恵泉 | : 1人部屋若干 |
| ・ シガ 御津    | : 1人部屋3室             | ・ キャッル真和    | : 1人部屋1室 |
| ・ ケアハウスアリア | : 1人部屋6室<br>: 2人部屋2室 | ・ あさなぎ      | : 1人部屋1室 |
|            |                      | ・ サリットひまわり園 | : 2人部屋1室 |

《バリアフリーマンション》 リバティかこがわ 1室

[問合せ先] せいりょう園介護相談室 TEL (079)421-7156 / (079)424-3433